

徳島大学先端酵素学研究所
プロテオゲノム研究領域動物実験施設
動物飼育管理 SOP (Standard Operating Protocol)

平成 20 年 4 月 28 日
平成 28 年 7 月 14 日改訂
令和元年 9 月 30 日改訂

徳島大学先端酵素学研究所プロテオゲノム研究領域

動物実験施設動物飼育管理のSOP

I. 総則

1. 本標準操作手順書は徳島大学動物実験管理規則および先端酵素学研究所プロテオゲノム研究領域動物実験施設利用の手引きに則りプロテオゲノム研究領域動物実験施設の飼育管理の手順を定めたものである。
2. マウスの飼育管理については、先端酵素学研究所長である管理者と管理者が任命した実験動物管理者が総括的にあたり、飼育管理業務委託先の飼養責任者または飼養責任者に指示された者(以下:飼養者)が作業を行う。
3. 実験の都合上、本手順以外の飼育方法が必要とされる場合は、試験責任者と飼養責任者で協議し別に手順を定め、実験動物管理者に報告し、許可を得る。

II. 飼育管理業務範囲

プロテオゲノム研究領域における受託飼育管理会社、飼育管理業務の範囲はプロテオゲノム研究領域動物実験施設利用の手引きの通りとする。本 SOP は、以下の業務を詳しく記載する。

1. 試験使用マウスの入荷と馴化飼育、健康管理。
2. 飼育施設の管理、運用。
3. 飼育室の環境条件の管理。
4. 飼育器具、機材、飼料及び床敷きの管理。
5. 飼育管理作業。
6. 飼育管理作業記録の作成及び保管。

III. 動物の発注および購入

プロテオゲノム研究領域動物実験施設内で飼育可能な動物はマウスとし、利用手引きに従い各実験者が動物実験委員会に許可を得て発注を行う。

1. 試験担当者は使用動物について購入業者に必要数の動物が確保可能かを打診し、その結果動物の購入予定日を決定する。
2. 動物購入者は動物実験委員会に動物購入に必要な搬入申込書を提出し、動物実験委員会の許可を得る。許可のない場合には動物の購入および搬入は認めない。
3. 試験担当者は動物を発注した後、飼養責任者に入舎伝票と動物搬入申込書のコピーを提出する。
 - 入舎伝票は 2 週間前までに提出する。緊急の場合には動物搬入申込書を付けずに 2 日前までに提出する。動物搬入申請書は申請後に提出する旨を飼養責任者に連絡する。

IV. 飼育施設、飼育器材の管理及び使用

1. 飼育区域

先端酵素学研究所 B 棟 5 階にある動物実験区域内の更衣室、飼育室、飼育準備室、洗浄室の他、胚細胞操作室、マウス胚操作室、マウスイメージング解析室、作業廊下、動物 X 線照射室、動物実験室事務室、倉庫および技官控え室を飼育区域とする。

2. 飼育室内環境条件

- 1) 温度 : 設定範囲 $22 \pm 1^{\circ}\text{C}$ 許容範囲 $20 \sim 25^{\circ}\text{C}$
 - 2) 湿度 : 設定範囲 $50 \pm 15\%$ 許容範囲 $40 \sim 70\%$
 - 3) 換気回数 : 陰圧一方向式気流 $12 \sim 15$ 回/時(オールフレッシュ)全熱交換器使用
 - 4) 風速 : 設定範囲 $13 \sim 18$ cm/秒
 - 5) 室内気圧 : 外部に対して、廊下 ± 0 飼育準備室・飼育室-1 飼育ラック-2 飼育ラック後室-3 単位 /mmH₂O
 - 6) 空気清浄度: Class 10.000 動物を飼育していないバリア区域
 - 7) 規格:0.3/99.9% ヘパフィルターで濾過
 - 8) 騒音 : 設定範囲 60phon 以下
 - 9) 臭気 : アンモニア濃度で、設定範囲 20ppm 以下
 - 10) 照度 : 床上 30cm $150 \sim 300$ Lx/FL(タイマーによるコントロール)
 - 11) 照明時間 : 点灯 8 時～消灯 20 時 12 時間の明暗
 - 12) 水質 : 上水道の項目、残留塩素濃度 $4 \sim 6$ ppm
- 照明タイマーは目視により確認可能。その他の環境測定については必要に応じて 専門の業者に依頼および検査書を取り寄せる。

3. 飼育器材

A) 飼育器材の管理

飼育器具の総括管理は飼養責任者が行う。飼養責任者は試験目的別に使用する飼育器具を試験責任者と協議し決定する。購入は、各器材によってメーカーが違うが特に販売店の指定がない場合には徳島大学指定販売店に依頼するものとする。

B) 器材の種類

飼育室内および飼育区域内で使用する器材は以下の通りとする。

1) 飼育ラック

メーカー:精研 販売店:日本クレア

マウス床敷飼育用

2) 飼育ケージおよびステンレス製ケージ蓋(給餌部付)

メーカー:日本クレア 販売店:日新器械

本体:TPX フタ:ステンレス CL-0112 ケージ(155×245×150mm)

本体:TPX フタ:ステンレス CL-0104 ケージ(225×338×140mm)

3) 給水器

メーカー: 日本クレア 販売店: 日新器械

プラスチック製給水ビン(CL-2707)

ステンレス先栓(サイズ: $\phi 8 \times 70\text{mm}$)

C) 飼育器材の搬入及び保管

1) 飼育ラックの搬入手順

飼育室に備え付けた後、室内より搬出することは出来ないため、納入業者が非常階段より飼育室への搬入・設置および搬入後の飼育室清掃、消毒(クリーンアップ)を行う。その際、飼育環境の測定等、飼育室を稼動するにあたり必要な検査は業者に依頼する。

2) 器具(飼育ラック以外)の搬入手順

更衣室から蒸気滅菌出来ない物は、70%アルコール噴霧消毒して飼育廊下から飼育室に搬入、オートクレーブで蒸気滅菌出来る物は、洗浄室に移動して所定の滅菌条件(表2参照)で滅菌後洗浄室から飼育区域に搬入する。

3) 使用器材の滅菌、消毒

飼育区域内へ搬入する器具類は全て滅菌もしくは消毒する。

研究者が持ち込む実験器具類も事前に滅菌した物、または滅菌出来ない物に関しては70%アルコールで噴霧または清拭消毒をして、パスボックスを介して飼育区域内に持ち込む。

4) 飼料

① 種類

MFG(ガンマ線滅菌済、オリエンタル酵母製)を使用する。

その他、別の飼料を使用する場合には飼養責任者と試験実施者が協議の上で決める。

② 飼料の受領および搬入保管

飼料は飼育区域内に保管庫はないので最大1ヶ月で使い切る量を注文し、入荷するまで飼料は納入業者にストックしてもらう。

使用期限は製造後6ヶ月以内とする。

③ 飼育区域への搬入及び記録

動物実験室事務室から洗浄室に移動して、未滅菌飼料は70%アルコールを外側に噴霧後、滅菌飼料は洗浄室で箱から出し、70%アルコールで外袋を消毒して作業廊下のエレクターシェルフに保管する。

5) 飲料

洗浄・消毒終了後に給水ビンに水道水を入れ、オートクレーブで滅菌した滅菌水を与える。

滅菌有効期限は2週間を限界とし、滅菌後2週間を超えた水は動物に与えずに水は廃

棄し水を入れ替え再度滅菌して与える。

6) 床敷き

A) 種類

㈱日本クレア製のクリーンチップ SP を使用する。

床敷きを受領する際、納入数、破損の有無を確認して、破損が認められた場合、返品又は補修する。受領後直ちに、納品日、使用期限、搬入数を所定の納品記録書に記載したうえ洗浄室に保管する。保管庫はないので最大1ヶ月で使い切る量を注文し、入荷するまで床敷は納入業者にストックしてもらう。

B) 飼育区域への搬入及び記録

ケージに適量を入れた後蒸気滅菌して、飼育準備室のラックにストックし、使用当日に飼育室内に必要な数を搬入する。

滅菌有効期限は1ヶ月とし、滅菌後1ヶ月を超えた場合には再度滅菌して搬入し、準備室のラックにストックする。

V. 飼育施設の利用方法

1. 飼育区域の入退室記録

飼養管理作業者は常時在室の為、特に入退室記録には記載しない。入室する研究者および点検業者等、不定期で入退室する場合には入退室記録に記載する。本動物実験施設の利用を登録していない者が一時入室を希望する場合には、利用登録済み学内教職員が申請者となり、一時入室申請書(様式 14)を実験動物管理者に提出し、承認を得た後、申請者の立会いのものに入室する。

2. 飼育区域での入退室動線

- 扉の鍵を開けて更衣室に入り、出入り口の下駄箱に靴をいれる。入室記録用紙に定められた内容を記録する。
- 私服を所定の場所に掛け、予め滅菌消毒した無塵衣を着用し、マスク・キャップ・ゴム手袋を装用する。
- 70%アルコールでゴム手袋の上から手指を噴霧消毒して、エアシャワーを使用して粉塵等を取り除いた後、所定のサンダルを履いて作業廊下に入る。
- 各飼育室の出入りは、飼育室および飼育準備室前の粘着マットを踏み込みサンダルの粉塵を落とすとともに、消毒液でサンダルを消毒して飼育室間の動線を保つ。
- 飼育区域からの退出は飼育廊下でサンダルを脱ぎ、無塵衣はファスナーを閉めて更衣室にあるダストカート入れ、マスク・キャップ・ゴム手袋等の廃棄物は所定の感染ゴミ用のゴミ箱にいれる。再度入室する時は新しい物を使う。

3. マウス飼育区域の清掃、消毒、殺菌及び記録

各作業日の最終に飼養管理者は、飼育区域の清掃、消毒に関する本標準操作手順書に従い清

掃及び消毒を行う。各作業名および使用消毒薬等は飼育管理記録に記入する。

A) 清掃方法

飼育室および飼育準備室は各室専用のホウキ・刷毛によりラック内または床のチップ、粉塵等の掃き掃除を行う。

B) 消毒方法

飼育区域内および洗浄室内で使用する消毒薬はニッサンアノン # 300、ピューラックス、マイクロカット、70%エタノール、エクスポアーとする。

消毒薬の購入は、各機材によってメーカーが違うが特に販売店の指定がない場合には販売代理店である日新器械(株)(以下:納入業者)に依頼するものとする。

以下、各消毒薬の特徴を記載する。

①両性界面活性剤(塩酸アルキルホリアミノエチルグリシン)(商品名:ニッサンアノン # 300、メーカー:日本油脂)

特徴

- グラム陽・陰性菌, 真菌, 酵母に有効。
- 緑膿菌、抗酸菌に対して有効
- HVJ, MHVなどのウイルスに対し有効。
- 洗浄効果がある。
- 有機物の共存で不活化されにくい。
- 生体に対し刺激性が無い。
- 金属に対し腐食性少ない。
- Ca, Mg, Fe などの金属イオンの影響を受けにくい
- 防臭, 除臭能力にすぐれる。

②消毒用エタノール(商品名:エタライト、メーカー:ニプロジェネファ)

特徴

- 無色澄明の液体。
- 揮発性があり、残留しない。
- 特異臭。
- 水と任意の割合で混合する。
- 多くの有機溶媒によく溶ける。

用途

- 手指・皮膚の消毒
- 手術部位(手術野)の皮膚の消毒
- 医療用具の消毒

③次亜塩素酸ナトリウム(6%溶液)(商品名:ピューラックス、販売元:日本クレア)

特徴

- 一般細菌、ウイルス、芽胞、真菌、抗酸菌等に殺菌効果を発揮する。
- 有機物により効果が減ずる。

④無リン ベンザルコニウム系 液体洗浄剤(商品名:マイクロカット、メーカー:ECOLAB(株))

特徴

- リンを含まない特殊洗浄剤。
- 冷水・温水どちらでも使用可能だが、熱湯による洗浄でバクテリアに効果的。

⑤二酸化塩(商品名:エクスポアー、メーカー:Alcide corporation)

特徴

- 二酸化塩素により一般細菌、ウイルス、芽胞菌、真菌、抗酸菌等に速効かつ強力な殺菌効果を発揮する滅菌的消毒剤である。
- 混合してから24時間以内のアルサイドABQ液は、微生物を30秒～2分間以内に死滅させる。
- エクスポアーは混合してから14日以内に使用すれば細菌、ウイルス、真菌、抗酸菌を3分間で死滅させる。芽胞菌(栄養型)、の滅菌には10時間を要する。

用途

- 疾病発生時の飼育器具、動物室の消毒

使用濃度および使用上の注意

水4;Base液(基剤)1:ACTIVATOR(活性剤)1容を加える。

- 1)水以外の化学薬品との混合はしない。(漂白剤・強酸・強塩基およびフェノール・アルコール・強酸化剤あるいは強還元剤との混合は避ける。)
- 2)酸化による劣化を防ぐため、消毒後に清浄水にて水洗する。
- 3)消毒液を噴霧器にてラック、ワゴン、動物室天井、壁、床および後室に噴霧する。
- 4)毒性は低いですが、消毒液を噴霧する際はゴム手袋・帽子・ガスマスク・保護メガネを着用した上で、消毒液の吸入、皮膚への接触をできるだけ少なくする。
- 5)使用する場合は、換気を良くすること。

消毒薬の使用は清拭または噴霧消毒とし、使用濃度および使用方法は表1参照。

<消毒薬使用方法>

(表 1)

種類	交換回数	洗浄	消毒	滅菌	清掃	消毒後の水洗
PCケージ	1回/週	交換ごと	無	搬入時		無
ケージ蓋	1回/月	交換ごと	無	搬入時		無
給水ビン	1回/週	交換ごと	交換ごと ²⁾	搬入時		有
ラック		飼育終了時	1回/週 ¹⁾	無		無
廊下			1回/週 ³⁾	無		無
動物飼育室内	フィルター	1回/2週	交換ごと	無	有	無
	床		無	1回/日 ^{2),3),4)}	無	1回/日
	天井		飼育終了時	飼育終了時 ^{1),3),4)}	無	飼育終了時
	壁		飼育終了時	飼育終了時 ^{1),3),4)}	無	飼育終了時
	電灯	消灯時		飼育終了時 ^{1),4)}	無	飼育終了時

1) 両面活性液(ニッサンアノン)300倍希釈液使用

2) 次亜塩素酸ナトリウム(ピューラックス)300倍希釈液使用

3) 塩化ベンザルコニウム(マイクロカット)300倍希釈液使用

4) 二酸化塩素(エクスポアー)規定希釈液使用(噴霧消毒)

5. 飼育ラックの清掃、飼育ケージの交換および給餌、給水

飼育ラックの清掃は原則として週1回、ケージ交換時に行う。

飼育棚を刷毛で清掃した後、消毒液(300倍希釈ニッサンアノン)を浸したタオルで清拭する。

- 飼育ケージは原則1回/週とし、マウス収容匹数等によって必要に応じケージ交換頻度を設定する。
- 飲料水も自由摂取として、滅菌した水道水を満たした給水ビンを最低1回/週以上で交換する。
- ラベルホルダーおよびケージフタ原則として1回/2カ月とする。
- 飼料は自由摂取として、ケージ交換時に不足気味の所は補充する。
 - 器材の交換時には複数のケージのフタは開けない事。

6. 微生物モニタリング

微生物モニタリングは各ラック共に大学側の指定日に微生物検査を実施する。

VI. 動物の入荷および馴化飼育

1. 動物の受領

- 先端酵素学研究所B棟1階の動物室直通エレベータ前のエレクターシェルフに動物を置き、

納品書は担当研究室に提出してもらおう。

- 動物の入荷時の確認は、提出されている入舎伝票と輸送箱の明細書を照合し、注文した動物である事(系統、週齢、性別、匹数)確認し、予め消毒済みの台車に積み、飼育区域内に持ち込む。

2. 入荷時の検査およびケージ、飼育ラックへの収容

- 入舎伝票のケージ収容匹数を確認し、ケージ収容時に一般状態を観察して指定された匹数を収容する。動物をラックに収容する際に、研究者所属・氏名およびマウスの入荷日、系統名、誕生日、性別を記載したケージラベルを貼付してラック内へ収容する。
- 異常症状マウスは個別飼育とし異常症状が見つかった場合は研究者に連絡した上で研究者の指示に従う。
- 輸送箱の搬出は作業廊下から洗浄室に出す。輸送箱の明細書は動物搬入後に、入荷時一般状態を入荷検収チェックシート(様式:8)に記載し、下部に貼付する。

3. 入荷動物馴化飼育

入荷後すぐに、実験に使用する場合が多いので、馴化期間は原則 5 日間とする。

馴化期間の一般状態観察は目視だけに留めず、触診も必ず行う。

馴化飼育中に死亡、瀕死になったマウスあるいは入荷時に異常を認めたマウスの処置については、研究者に報告した後、研究者の指示に従う。

4. 動物の搬出

- 飼育終了時または実験の都合により動物を搬出する場合は所定の紙箱にマウスを入れ、ビニール袋で紙箱を包んで搬出する。動物搬出の旨を動物搬出記録に記入する。
- 疾病、瀕死及び死亡動物の取り扱いまたは異常を認めたマウスの処置については利用の手引き内、異常動物の取り扱いに従う。

VII. 器具の洗浄、滅菌作業および保管

飼育区域内へ搬入する器具類は全て滅菌もしくは消毒する。

研究者が持ち込む実験器具類も事前に滅菌した物、または滅菌出来ない物に関しては 70%アルコールで噴霧または清拭消毒をして、パスボックスを介して飼育区域内に持ち込む。

器具の搬出については飼育管理に使用した器具類は全て作業廊下を經由して洗浄室に搬出する。

1. 器具の洗浄、保管または廃棄

- PC ケージはチップを可燃物用の袋に捨てた後、ケージウォッシャーで洗浄する。その際、破損しているものは破棄する。
- 洗浄した器具類は滅菌時まで洗浄室のエレクターシェルフ上で保管する。

- 給水ビンは流水下でフタを外し、300倍希釈ピューラックス液に20分以上の浸漬消毒をした後、ケージウォッシャーで2度以上、水洗する。
- 無塵衣、靴下の洗濯には家庭用の洗濯洗剤を使用する。

2. 器具の滅菌および保管

洗浄室のオートクレーブにて高圧蒸気滅菌する。その際、器具種類毎に滅菌シールにて滅菌完了であることがわかる表示をする。滅菌後の器具は3日以内に、飼育準備に搬入して、古い順に使用して、滅菌から1ヶ月以内に使用する。この期限を超過した器具類は再度滅菌した後使用する。滅菌物の種類は表2参照。

一般滅菌:121℃で20分以上の滅菌

液体滅菌:110℃で15分以上の滅菌

<滅菌条件>

(表2)

滅菌条件	種類			
液体滅菌	給水ビン	フィルター	*ケージフタ	その他;120℃に耐えられない物
一般滅菌	チップケージ	無塵衣	*ケージフタ	その他;研究者依頼物 (指定されたもの)

* 印は一般滅菌・液体滅菌のどちらでも可能とする。

3. 器具の使用方法

A) オートクレーブの使用手順

- ① 電源スイッチを入れる。
- ② 扉を開け、ゴムパッキンを確認する。
- ③ 滅菌物を入れる。
- ④ 扉をゆっくり閉め、軽く押し付けて扉閉ボタンを押す。
- ⑤ 液晶画面を確認し、缶内の器材によって滅菌行程を選択する。

滅菌選択行程別使用法を記す。

一般滅菌

- ボタン2(滅菌行程画面)を選択する。
- 滅菌行程選択画面になっている事を確認し、ボタン1(一般滅菌)を選択する。
- ボタン1を押し、行程画面を選択する。
- スタート・パスボタンをライトが消えるまで長押しする。
- 蒸気漏れ等の異常が無い事を確認する。
- 滅菌が始まる。

液体滅菌

- ボタン2を押し。
- 滅菌行程選択画面になっている事を確認し、ボタン2(液体滅菌)を選択する。
- ボタン1を押し、行程画面を選択する。

- スタート・パスボタンをライトが消えるまで長押しする。
 - 蒸気漏れ等の異常が無い事を確認する。
 - 滅菌が始まる。
- ⑥ 完了ブザーが鳴り、外筒圧力計・内筒圧力計および記録紙を確認する。
 - ⑦ 扉開ボタンを押す。
 - ⑧ 扉を開き、帽子、マスクおよびゴム手袋を付け、さらに耐熱手袋をしてドアを開ける。
 - ⑨ オートクレーブ専用の台車を使い、台車を固定した上で滅菌専用台をスライドして缶内より引き出す。
 - ⑩ 台車に滅菌専用台を固定したら、台車・滅菌専用台の 2 つを掴み、飼育区域側のドアまで運ぶ。
 - ⑪ 滅菌物の搬入は飼育区域にいる無塵衣、マスクおよびゴム手袋を着用した人員行う。
 - ⑫ オートクレーブのドアは開けた状態で、電源スイッチを切る。
- B) ケージウォッシャーの使用手順
- ① A 槽・B 槽の水槽の排水バルブを閉める。
 - ② A 槽・B 槽の給水バルブおよび蒸気バルブを全開にする。
 - ③ 水漏れ・蒸気漏れ等、異常の無い事を確認する。
 - ④ 蒸気が 60℃になるまで 20 分程度待ち、電源スイッチを押す。
- C) 洗濯機の使用手順
- ① ブレーカースイッチを入れる。
 - ② 給水バルブ蒸気バルブを全開する。
 - ③ 排水バルブを開ける。
 - ④ 主電源を入れる。
 - ⑤ 扉を閉める。
 - ⑥ スタートボタンを押す。
- D) 乾燥機の使用手順
- ① ブレーカースイッチを入れる。
 - ② 洗濯物の量によって、乾燥時間の選択をし、スタートボタンを押す。

4. 廃棄物の処理

使用済みチップおよび飼育管理区域内のゴミは大学指定の分別に従い各指定の袋に密封し、搬出部署の記載したラベルを貼付し回収日に所定のゴミ搬出場にまとめて出す。

使用済みゾンデ、シリンジ、アンプル等は医療用廃棄 BOX に入れ、必要に応じ滅菌した上で、感染ゴミ袋に入れ密封後、搬出する。

VIII. 飼育作業者の衛生管理

作業中に作業者が負傷した場合は直ちに所属の責任者に申し出て、必要に応じ医師に掛かる等指示に従う。

IX. 飼育管理記録の作成・保管および報告

飼養責任者は動物飼育期間中の飼育管理状況を1ヵ月毎にまとめ、利用の手引きに従い各研究者の飼育しているマウス数およびケージ数、各研究室に利用者負担額の請求に関する報告を教授および担当係長に報告する。

1. 飼育管理記録

- 入室時に環境確認(温度、湿度および空調)を行い、温湿度記録用紙に記載し、飼育室内ラック毎のケージ数をケージ数推移記録に記録する。(様式:5・6)
- 当日のケージ交換、給餌・給水作業等の飼育管理作業を行い、退室時には作業台および床の清掃、消毒を行う。
- 当日作業および使用消毒薬、作業担当者を飼育室作業記録に記載する。

2. プロテオゲノム研究領域内で作成する記録

- 飼育室温湿度記録自動監視・記録システムにより作成した記録。施設管理部にて保管してあるため、必要に応じ確認させてもらう。
- 飼育室温湿度記録自動監視・記録システムに制御されていない一時飼育室等の飼育室内温湿度記録は自動温湿度計により作成された記録。
- 飼育室入退室記録は飼育室内の入退室記録。(様式:2)
- 動物搬入記録、動物の入荷時確認の記録。(様式:1・7・8)
- 動物搬出した場合の搬出記録。(様式:3)
- 処分および死亡動物の屍体処理記録。(様式:4)
- 飼料の納品および使用記録は製造年月日、納入年月日、数量、ロット番号の記録。(様式:13)
- 機器使用記録は各種機器の使用年月日、使用時点検、使用目的、使用者の記録。(様式:9・10)
- 機器点検整備・修理・各種機器の定期点検および修理、交換時の記録。
- 異常発生時の対応記録は施設の異常および感染症による疾病動物発見時のその内容・処理方法に関する記録。

3. 外部機関から入手する記録

- 使用動物の遺伝子検査記録を必要に応じ製造業者より入手。
- 他の機関より動物を移送する場合の過去1年以内の微生物モニタリング記録。

4. 記録の保管

- いずれの記録についても使用中の記録は更衣室兼居室に1年分を配置する。前年度以前の記録については技官控え室に保管する。保管期間は3年間とする。

(様式:1)

入 舎 伝 票

氏名： (フルネーム・自署)

所属： 免疫系発生学 薬理学・臨床薬剤分野
 免疫アレルギー学分野 発生生物学分野
 蛋白質発現分野 口腔顔面矯正学分野
 生体機能学分野 セツロテック
 ゲノム制御学分野
 免疫制御学分野
 その他 (学部・研究所・センター 分野)

連絡先：内線 ()・緊急の際の連絡先 ()
e-mail : @ tokushima-u.ac.jp

搬入予定日： 20 年 月 日
(動物搬入予定日の 1 週間前・緊急の場合は 2 日前までに提出してください)

動物種： マウス

系統名： C57BL/6, BALB/c, ICR, その他 ()

性別・週齢・匹数： ♀・♂ w 匹
 ♀・♂ w 匹
 ♀・♂ w 匹

業者名：クレア, エスエルシー, チャールス・リバー, その他 ()

搬入場所： F1/F2/F3/F4/F5/F6/F7/F8/S1/S2/S3/S4/S5/S6

1 ケージ当たりの匹数： 匹

微生物的保証： 有・無・免除 (3 指定ブリーダー)

実験区分： 新規 ・ 継続

実験題目：

承認番号：徳動物

搬入申込書添付：有・無

(様式:5)

年 月度ケージ数推移記録

飼育室

	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10	
	小	大	小	大	小	大	小	大	小	大	小	大	小	大	小	大	小	大	小	大
1																				
2																				
3																				
4																				
5																				
6																				
7																				
8																				
9																				
10																				
11																				
12																				
13																				
14																				
15																				
16																				
17																				
18																				
19																				
20																				
21																				
22																				
23																				
24																				
25																				
26																				
27																				
28																				
29																				
30																				
31																				

(様式:6)

年 月 度 室 飼育管理記録

日	温度	湿度	差圧	飼育管理作業者名		清掃 作業者名	使用 消毒薬	その他
				ケージ交換	給餌・給水			
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30								
31								

その他：作業内容と作業者名を記入する

消毒薬：使用消毒薬記号マイクロカット(M)、ピューラックス(P)

動物搬入申込書

徳島大学動物実験委員会殿

申込日 (西暦) 2019 年 10 月 3 日

*受付番号

申請者名 (実験動物の実際の取扱者名を御記入下さい) 内線()		所属部局： 分野名：		教授等 責任者印		
動物実験計画書 承認番号		有効期限	動物実験計画書の有効期限日をご記入ください (西暦) 年 月 日			
実験題目						
搬入後 飼育の有無						
<input type="checkbox"/> 飼育有り 飼養保管施設名： <input type="checkbox"/> 飼育無し(48時間以内の動物実験に限る) (搬入場所を詳細にご記入下さい。例：○棟○階○室 等)						
購入動物 (マウス・ラットはSPF)						
<input type="checkbox"/> マウス <input type="checkbox"/> ラット <input type="checkbox"/> ウサギ <input type="checkbox"/> モルモット <input type="checkbox"/> ブタ <input type="checkbox"/> 凍結胚 (動物種：) <input type="checkbox"/> その他 ()						
[系統名]		Tg	KO	KI	[個体動物] (単位：匹)	[凍結胚]
①		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	W ♂ ♀	個 本
②		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	W ♂ ♀	個 本
③		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	W ♂ ♀	個 本
④		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	W ♂ ♀	個 本
⑤		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	W ♂ ♀	個 本
⑥		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	W ♂ ♀	個 本
⑦		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	W ♂ ♀	個 本
⑧		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	W ♂ ♀	個 本
⑨		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	W ♂ ♀	個 本
⑩		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	W ♂ ♀	個 本
Tg・KO・KIに <input checked="" type="checkbox"/> を入れた場合は遺伝子組換え委員会承認番号を記入し、添付書類へチェック下さい。						
遺伝子組換え委員会承認番号 第 _____ 号				有効期限 _____		
添付書類				遺伝子組換え動物の 微生物的保障：		
<input type="checkbox"/> 微生物検査票 (過去3回分/凍結胚の場合も必要) <input type="checkbox"/> 実験動物授受のための動物健康及び飼育形態レポート (指定様式/海外から搬入時必要なし) <input type="checkbox"/> 遺伝子組換え動物の譲渡等に係る情報提供書のコピー (徳島大学承認書類)				<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
動物入手先		<input type="checkbox"/> 日本クレア <input type="checkbox"/> 日本チャールス・リバー <input type="checkbox"/> 日本SLC <input type="checkbox"/> 北山ラベス <input type="checkbox"/> その他 []				
動物搬入希望日 (西暦)		[個体動物]		[凍結胚]		
年 月 日 ()	♂ ♀	個 本				
年 月 日 ()	♂ ♀	個 本				
年 月 日 ()	♂ ♀	個 本				
年 月 日 ()	♂ ♀	個 本				
年 月 日 ()	♂ ♀	個 本				

注：以下は記入しないでください。

*動物搬入了承 (西暦) 年 月 日	印
徳島大学動物実験委員会	

*のところは記入しないでください。

(様式：8)

入荷時検収記録

入荷日	/ /
系統	
性別	♀・♂
総数	
週令	
妊娠	日目(/ /)
部屋	

免疫系発学 生体機能学 薬理学 口腔顔面矯正学 その他 ()	免疫アレルギー学 免疫制御学 発生生物学 セツロテック
研究者氏名	
納入業者	クレア・SLC チャールスリバー ()
入荷担当者	

点検箇所	異常の有無	異常の症状	異常匹数
被毛	有・無	立毛・脱毛・汚れ・湿り気	
皮膚	有・無	怪我・ただれ・痂皮・発疹・腫瘍	
目	有・無	眼やに・眼球突出・失明(片眼)・湿疹	
鼻孔周辺	有・無	鼻汁	
耳	有・無	怪我・化膿	
尾・四肢	有・無	怪我・痂皮・発赤・関節の腫れ	
肛門・外陰部	有・無	怪我・汚れ	
行動の異常	有・無	うずくまる・過敏	
呼吸異常	有・無	くしゃみ・鼻音	

特記事項

(様式:9)

年 月 度 オートクレーブ使用記録

使用日	滅菌物	異常	滅菌回数	滅菌実施者	備考
1		有・無	回		
2		有・無	回		
3		有・無	回		
4		有・無	回		
5		有・無	回		
6		有・無	回		
7		有・無	回		
8		有・無	回		
9		有・無	回		
10		有・無	回		
11		有・無	回		
12		有・無	回		
13		有・無	回		
14		有・無	回		
15		有・無	回		
16		有・無	回		
17		有・無	回		
18		有・無	回		
19		有・無	回		
20		有・無	回		
21		有・無	回		
22		有・無	回		
23		有・無	回		
24		有・無	回		
25		有・無	回		
26		有・無	回		
27		有・無	回		
28		有・無	回		
29		有・無	回		
30		有・無	回		
31		有・無	回		

(様式:10)

年 月 度 ケージウォッシャー使用記録

使用日	洗 浄 物	異常	作業実施者	備 考
1		有・無		
2		有・無		
3		有・無		
4		有・無		
5		有・無		
6		有・無		
7		有・無		
8		有・無		
9		有・無		
10		有・無		
11		有・無		
12		有・無		
13		有・無		
14		有・無		
15		有・無		
16		有・無		
17		有・無		
18		有・無		
19		有・無		
20		有・無		
21		有・無		
22		有・無		
23		有・無		
24		有・無		
25		有・無		
26		有・無		
27		有・無		
28		有・無		
29		有・無		
30		有・無		
31		有・無		

年 月 度 器材洗浄数

(様式 : 11)

日	ケージ交換数		洗浄数	滅菌準備数	
	小	大		小	大
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					

日	給水ビン 交換数	洗浄数	滅菌準備数
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			

年 月度 滅菌物品数 (様式 : 12)

日	ケージ		フタ		ケージ ラベル
	小	大	小	大	
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					

日	無塵衣 滅菌準備数	フィルター
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		

(様式:14)

先端酵素学研究所プロテオゲノム研究領域動物実験施設
一時入室申請書

申請日： 年 月 日
入室日時： 年 月 日 時～ 時

申請者（当施設に利用登録をしている学内教職員）：

氏 名	
所 属・職 名	

入室の際は、申請者が必ず立ち会ってください。

一時入室者：

氏 名	
所 属・職 名	
入 室 目 的	
入 室 場 所	_____飼育室・_____実験室

誓約書

一時入室者は、

- ペットとしてげっ歯類（マウス、ラット、ハムスター、モルモット、リス等）を飼育していません。

（イヌ・ネコの口腔・爪にはパスツレラ属（含 *P. pneumotropica*）が常在菌として存在します。現在のところ禁止はしませんが、もし飼育されている場合には十分にご注意下さい。）

- 過去2週間以内に、他の動物実験施設等に入室していません。
 過去2週間以内に、当動物実験施設外で飼育されているげっ歯類に接触していません。
 施設内では、「動物実験施設利用の手引き」に記載のルールに従います。

一時入室者（自署） _____

(様式:15)

先端酵素学研究所プロテオゲノム研究領域動物実験施設利用者承認申請書

申請日： 年 月 日

氏名	
所属・職名	
主任教授	(印)
実験題目	
承認番号	T _____ - _____
持込材料	無・有 (_____) 細胞株の場合は ICLAS での検査結果の提出が必要です。 特別配合飼料は、徳島大学動物実験委員会による申合せ (H25 年 10 月 8 日) に従って下さい。
既往症	慢性感染症 : なし・あり (_____) アレルギー疾患 : なし・あり (_____) その他、動物実験を行う上で、相談を希望する健康上の問題 : なし・あり (_____)
教育訓練受講日	平成 年 月 日
ペット飼育	無・ハムスター・ラット・マウス・モルモット・イヌ・ネコ その他 (_____) イヌ・ネコの口腔・爪にはパスツレラ属 (含 <i>P. pneumotropica</i>) が常在菌として存在します。 現在のところ禁止はしませんが、十分にご注意下さい。

動物実験歴と内容 (本申請と関連の深いもの、期間が長いものを優先して、最大 2 期間記載)

1. 経 験 : 無 ・ 有 (有の場合は 2 へ)

2. 動物種 : マウス・ラット・ウサギ・その他 (_____)
 機 関 : 本施設・その他 (_____ 大学・研究所 _____ 学部・部門)
 飼育環境 : SPF・コンベンショナル・その他 (_____)
 期 間 : _____ 年 月 から _____ 年 月
 実験内容 : _____

3. 動物種 : マウス・ラット・ウサギ・その他 (_____)
 機 関 : 本施設・その他 (_____ 大学・研究所 _____ 学部・部門)
 飼育環境 : SPF・コンベンショナル・その他 (_____)
 期 間 : _____ 年 月 から _____ 年 月
 実験内容 : _____

動物実験施設記入欄

利用者説明会出席日	年 月 日
資格承認	可 / 不可 (理由 : _____)
カード登録	登録カード番号 : _____